

短期派遣 EUROPA 派遣報告書

2011年1月
博士前期課程 藤野りつこ

派遣先機関：

パリ第三大学通訳翻訳高等学院 (ESIT)

派遣期間：

2010年10月2日～2010年12月17日

研究テーマ：

「国際用語に関する日仏英用語集」

派遣の目的：

- ① 修士修了研究のさらなる充実。
- ② 本学の国際コミュニケーション・通訳専修コースでは日英通訳を学んでいるが、世界中の通訳系の大学院で唯一日仏間の通訳を正規課程で教えている、パリ第三大学の会議通訳者養成科にて、本学では学べない日仏英通訳を学ぶこと。
- ③ ESIT 独自の通訳教育に触れ、本学の国際コミュニケーション・通訳専修コースとの教育方法の違いについて考察すること。

派遣の成果：

- ① 作成した修士修了研究は、大きく二部に分けられる。第一部では、外交について概観し、実際に日本外交の現場で通訳業務を行った方々へのインタビューを通して、外交通訳の実態や、外交通訳者の意識・役割についてまとめた。第二部では、外交の現場で使用される用語に関する日本語・英語・フランス語の対照用語集を作成し、定義を加えた。
ESIT は国際会議通訳者の養成も目的としており、講義や演習でも日頃から時事問題や外交に関する話題が頻繁に扱われる。よって、留学先にて行った数々の演習や講義を通して得られた知見を、用語集作成の際に反映させることができた。
- ② 修士1年生と2年生の「日仏通訳演習」、「仏日通訳演習」に参加した。また、空き時間には日仏英の言語コンビネーションを持つ学生同士で定期的にグループ練習

を行い、モチベーションの非常に高い優秀なクラスメートたちから多くを学んだ。学校全体には常に緊張感が漂っていたが、大変刺激的な環境であった。そのような環境の中に身を置き、常に通訳について意識することによって、言葉に対してより敏感になったし、フランス語力も渡仏した時点よりも向上したとを感じる。また、ESIT では、そこでの通訳訓練のベースとなっている、“Déverbalisation”（通訳プロセスにおける「非言語化」）という概念が常に強調されており、前期にはこの概念についてのシンポジウムも開かれた。単なる言葉の置き換えではなく、「通訳をする」、「意味を伝える」というのはどういうことか、あらためて熟考するきっかけとなった。

また、「日仏通訳演習」以外にも、「英仏通訳演習」、「通訳・翻訳理論」、「外交通訳」、「会議通訳の現場」、といった授業にも参加し、第一線で活躍中の経験豊富な通訳者の方々による授業を受けることができた。

- ③ 国際コミュニケーション・通訳専修コースと ESIT の会議通訳科では、修士 1 年次に逐次通訳、2 年次に同時通訳を学ぶこと、また、サイトトランスレーションという基礎的な訓練方法を重視しているなど、共通点が見られた。ただし、修士 1 年次にノートテキング（逐次通訳における情報保持のためのメモ取り）を始める時期や、演習の際の指導方針・方法において、異なる部分も多々見られた。
- ④ 日仏製薬協会会議の同時通訳、また、ユネスコ本部にて開催された 65 周年記念式典にて多言語間の同時通訳を聞く機会を得るなど、民間そして国際機関における実際の通訳現場に触れることができた。パリ、そして ESIT にいたからこそできた体験であり、大変貴重な経験となった。

上記のように、通訳実務と研究の両方の側面を充実させることができた。

今後の課題：

今回の留学で学んだことを整理し、それをもとにこれからも訓練を続けていきたい。また、修士修了研究で作成した用語集も、定期的に更新していくことが望ましいと考える。

最後になりましたが、このような有意義な留学の機会を与えてくださった ITP-EUROPA 委員会の皆様方、先生方、そして、今回の留学を支援してくださったすべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。